
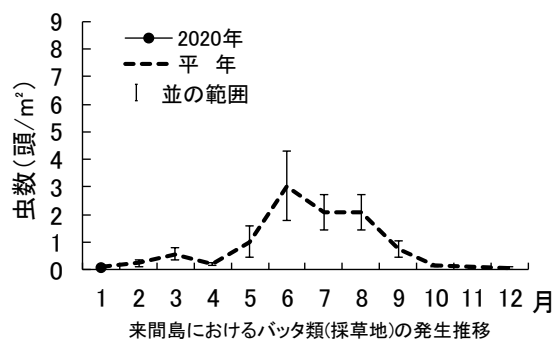
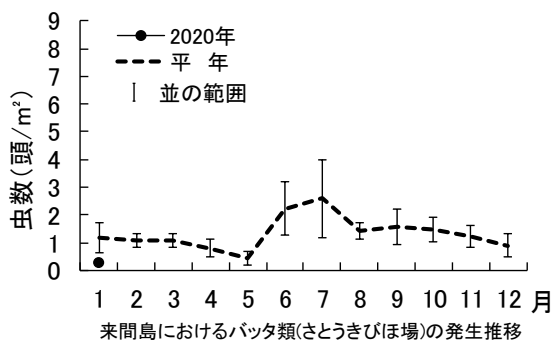


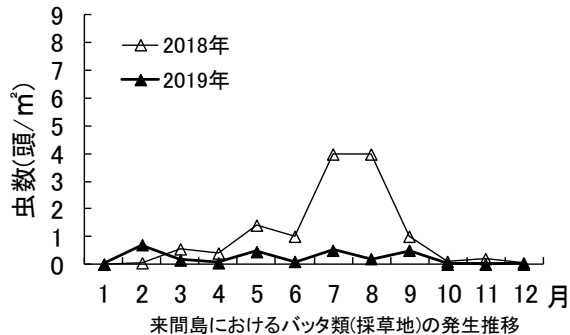
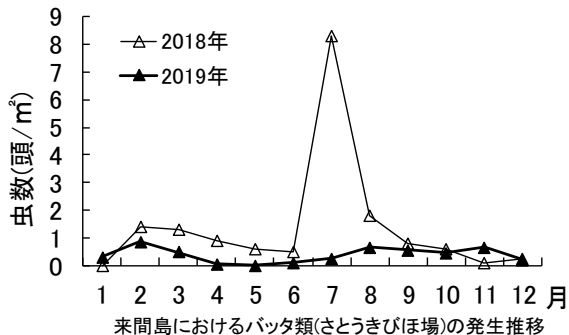
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	バッタ類		
予報	2 月の発生量 (平年比)	やや少	
	1 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	やや少	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今年と平年の推移




過去2年間の推移



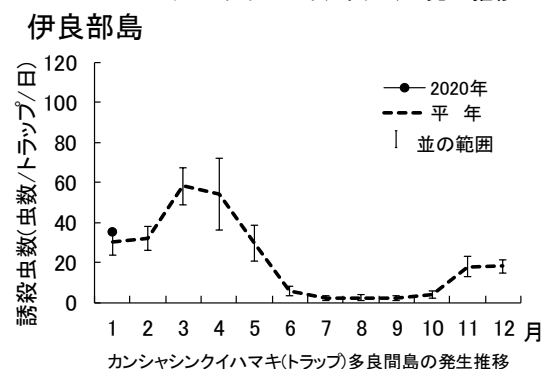
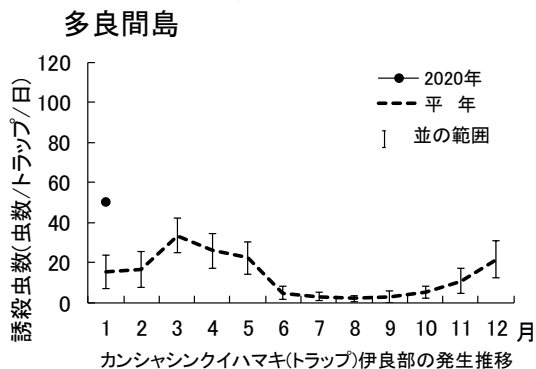
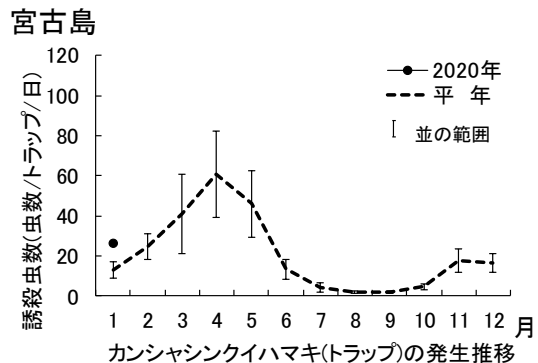
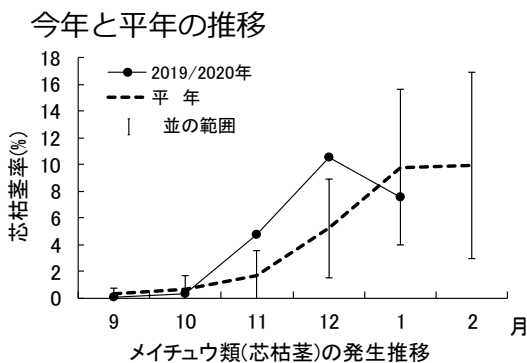
・発生種：タイワンツチイナゴ

防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の除草を徹底する。
- ・成虫防除を実施する場合には、活動の鈍い早朝に一斉防除を行うと効果的である。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



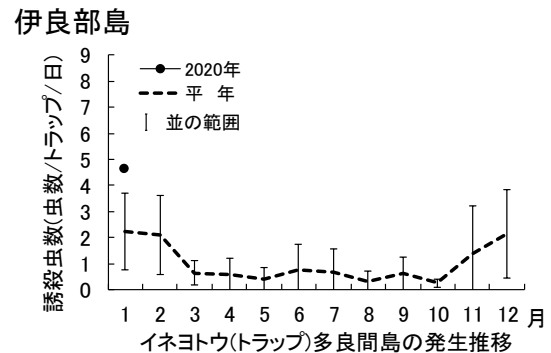
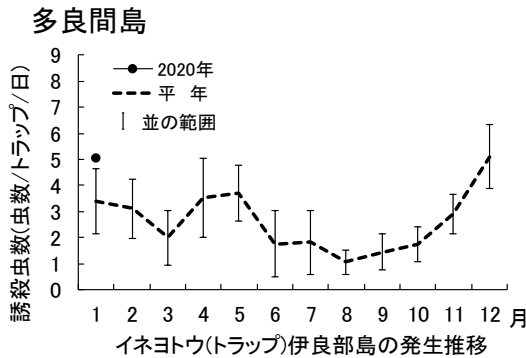
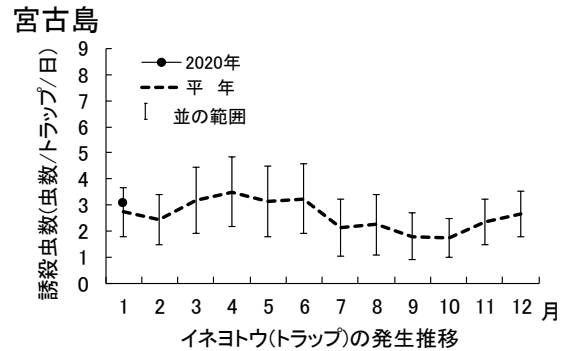
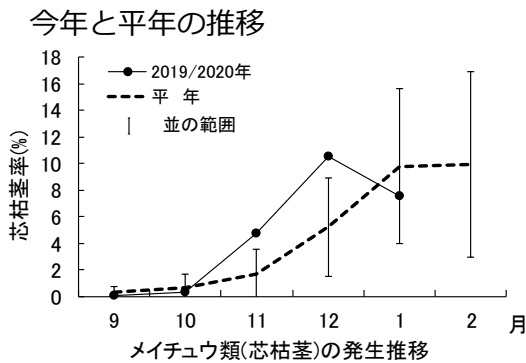
- ・ 芯枯れ発生ほ場率：90% (平年値：96.0%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類 (18頭) のうち、13頭 (72.2%) がカンシャシクイハマキであった。
- ・ 防除員報告：多発生 (宮古島、伊良部島)

防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	2 月の発生量 (平年比)	並	
	1 月からの増減傾向	→	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→)	


調査結果



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：90% (平年値：96.0%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類 (18頭) のうち、5頭 (27.8%) がイネヨトウであった。
- ・ 防除員報告：多発生 (宮古島、伊良部島)

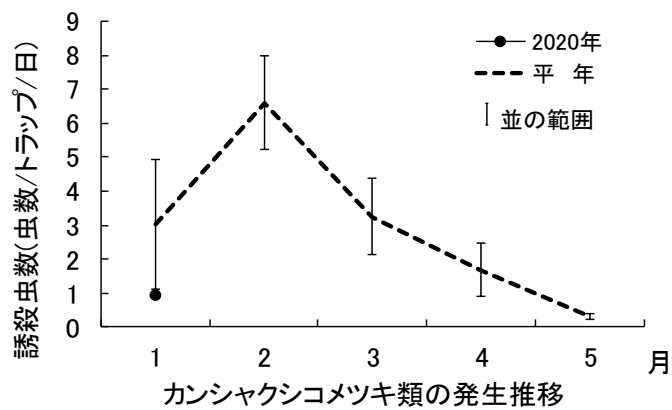
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

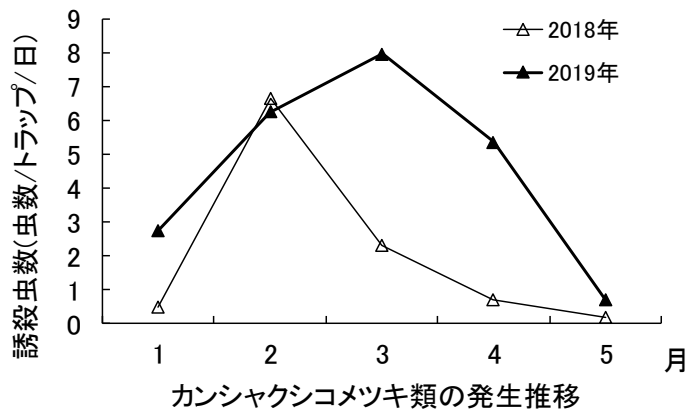
作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	カンシャクシコメツキ類		
予報	2 月の発生量 (平年比)	-	
	1 月からの増減傾向	-	
予報の根拠	1 月の発生量 (平年比)	-	
	その他 (気象要因など)		

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・ 成虫は2月上旬～3月上旬頃から地上に出てくる。
- ・ 発生が多い地域では連作を避ける。
- ・ 植付前に植溝に粒剤を施用する。



カンシャクシコメツキ類(成虫)